



あなたの声に力いっぱい! 公明こうべ

2012年
新春号

NEW KOMEITO
公明党

発行：公明党神戸市議員団
神戸市中央区加納町6-5-1

<http://www.kobe-komei.net>

第4回定例会より

「小児がんセンター」の 設立に取り組み 国会との連携で神戸に誘致を

第四回定例会で、矢田市長は、向井道尋市議（須磨区）の代表質問に答えて、「小児がんセンター」の設立方針を正式表明するとともに、市職員の不祥事に対して懲戒処分
の指針を厳しくすることなどを明らかにしました。

小児がんは子どもの病死原因の第一位。年間2000人から2500人の子どもたちが新たに小児がん
と診断されています。しかし、小児がんは大人のがんと違って症例が少なく、さらに全国約200の病院に患者が分散しているため、専門医も治療環境も整っていません。

神戸が最適地！
牧本先生は、小児がん拠点病院の立地として神戸市が最適地の一つであるとしています。その理由は、神戸市には先端医療センター、新

小児がんは、適切な診断と治療により7割が治癒すると言われています。それだけに、専門医の確保と診断・治療環境の整備は緊急の課題であり、公明党市議員団は、小児がん治療の権威である国立がん研究センター中央病院・小児腫瘍科長の牧本敦先生とともに、神戸市に小児がん治療の専門医を集めた全国レベルの拠点病院を設立する運動を進めてきました。



欧米では小児がん専門病院は少なくない。治癒率は80%という。日本でも一日も早い設立が待たれる。(写真はイメージ)

さらに牧本先生は、神戸は地理的に日本の中央に位置し、新幹線や神戸空港などがあって全国から患者が来やすい場所にあることもメリットとして挙げられています。

中央市民病院、県立こども病院などがあるのに加え、今後神戸大学低侵襲がんセンター病院などが建設され、化学療法、放射線治療、あるいは再生医療などの専門医が集まり、診断機器も充実しているからだとしています。

公明党の要求で国の予算獲得

国会においても、去る11月2日、公明党の荒木参議院議員が代表質問に立ち、公明党がかつて政権与党時代の2007年に策定した「がん対策推進基本計画」が来年度から第二次5カ年計画に移行するに際し、小児がん対策を重点課題とするよう訴えました。

これに対し、野田総理は、「平成24年度予算編成過程において小児がん対策を着実に進めて行く」と答弁し、小児がん拠点病院の整備などの対策を進める考えを示しました。そ

して厚生労働省の概算要求にもその予算が計上されました。
矢田市長、拠点病院設立に走る

このような国、神戸市における公明党の戦いを受けて、矢田市長は、厚生労働省ほか関係機関との調整を進め、神戸に全国初の小児がん拠点病院の設立に取り組むことを本会議場で正式に表明しました。

もとより拠点病院の設立は小児がんと戦う親子のみならず、患者家族の切実な要請を一日も早く実現するためさらに戦って参ります。

市職員の不祥事続発を迫及! 矢田市長、厳罰方針示す

神戸市では、昨年度、DV防止法違反や暴行・傷害等により市職員13名が逮捕、今年度も大麻取締法違反や児童福祉法違反等により6名が逮捕されるなど、この5年間で、実に240名が懲戒処分を受けています。市長が綱紀粛正を叫び、懲戒処分を繰り返しても、不祥事が繰り返されるこの実態をとらえ、向井市議は厳しく矢田市長に対応策を迫りました。

外部専門家でも不適正経理をチェック

昨年の不適正経理問題も記憶に新しいところですが、公明党市議員団の提案で、外部の弁護士、公認会計士などによる外部検証委員会を設けて、再発防止策を策定し、実施状況の検証も行いました。その結果、不適正経理の問題は一定の解決をみたところですが、しかし、勤務規定の違反あるいは刑法などに違反する事件はなくなっていない。

問題続けば解雇する新ルール

向井市議は、このような状況に対して、これまで何度も綱紀粛正を訴えながら一向に改善されないのは、処分のあり方そのものに問題があるのではないかと指摘。最も重い処分は懲戒免職ですが、その対象は限られています。これに対して矢田市長は、懲戒理由に該当しなくても、現実に職務に支障きたす場合、民間企業の解雇に相当する「分限免職」の処分を行うためのルールを明確にすることを表明しました。

新春 青年が夢を描く神戸の街に!!

慶応3年、明治維新前夜の開港から常に世界とともに近代日本の最先端を行く街として歩んできた神戸。今改めて青年が夢を描き活躍する街を目指し神戸を語る。



壬生 潤 (みぶ じゅん)
'60生まれ。神戸市議当選3期。公明党市議団政策審議会長。

壬生 今年は神戸が重要な舞台になる大河ドラマ「平清盛」が始まりますが、どんな清盛が描かれるのか、楽しみです。

田中 神戸を日宋貿易の拠点にと考えた清盛の発想は、国際都市神戸の原点。若かりし頃の清盛が神戸に抱いた熱い思いが伝わるようなドラマになると思います。港町神戸はファッションや食へ物、音楽や映画など、様々な物を受け入れて独自の文化を育んできました。昔は「神戸に行けばおしゃれな物がある、珍しい物が手に入る」と期待して、大勢の方が来てくれました。そんな、わくわくする思いが味わえるまちこそ「クール」だと思います。

「わくわく」は創造の源

福岡 わくわく感は教育の原点でもあります。「コンピュータ教育に携わっている関係で、世界の著名なIT関係者がアメリカの何もない砂漠に集まり思い思いに街をつくる「バーニングマン」という破天荒なイベントに行きました。このイベントが彼らの創造の源。何かを創造するというアイデアはほんとにわくわく感。



福岡 壮治 (ふくおか そうじ)
1964年、神戸生まれ。神戸電子専門学校校長。全国専門学校情報教育協会常任理事、アニメーション神戸実行委員等も務める。

赤羽 私は、スーパーコンピュータ「京」を神戸に誘致しましたが、見事世界の速さを達成しました。事業仕分けの難にあいながら(笑)やり通した志はすごいと思います。世界最速を実現した技術は、様々な可能性を秘めています。これをどう使うか、まさに次代を担う青年の創造力次第だと思います。

壬生 若者が活躍する分野をどのように創造していくかが課題ですね。

新時代の登竜門に

福岡 若者の発想や創造性がなければ新しいものは生まれません。雇用の担い手である中小企業も青年の力を求めていますがお互いにミスマッチがある。私たち教育機関の責任も大ですが、神戸市トータルで若者を育成する仕組みが必要です。それも世界に通用する人材に。

赤羽 神戸には環境エネルギー技術、最先端医療、ファッションなど世界が求める「クール」なものがたくさんあります。これらは中小企業が支えています。公明党は、その魅力を青年に伝え、わくわくするような夢とやる気を育む「ジョブカフェ」政策を進めています。神戸を青年が世界に羽ばたく登竜門にしたい。田中まこさんの仕事も世界につながるまったく新しい仕事ですね。



赤羽 一嘉 (あかば かずよし)
1958年、東京生まれ。前衆議院議員。1993年衆院初当選。当選5回。財務副大臣、衆院国土交通委員長、同災害対策特別委員長等を歴任。

田中 私の仕事は、神戸に映画やドラマのロケを誘致することですが、世界的な人気を誇る日本のアニメが原作の映画「GANTZ」、ジャッキー・チェン主演の「新宿インシデント」、北野武監督の「OUTRAGE」「ガラスの華」や「スターの恋人」といった韓国ドラマなどは、国際都市神戸だからこそ実現した撮影です。若い人たちが様々な作品を通して神戸の魅力を発見し、「このまちで夢を叶えたい」と思ってもらえると嬉しいですね。



田中まこ (たなか まこ)
1955年、大阪生まれ。神戸フィルムオフィス代表。2000年9月発足と同時に代表就任。03年12月には国土交通省の「観光カリスマ」に選ばれる。

壬生 今年は龍年。まさに皆さんの知恵を頂きながら神戸が様々な分野の若者の登竜門になるよう頑張りたいと思います。

昇竜の勢いある年に!

年頭にあたりみなさまのご多幸をお祈り申し上げます。本年も、われわれ市議団力をあわせ市民のくらしを守るため邁進して参ります。



たか せ かつ や 高瀬勝也 灘区	むか い みち ひろ 向井道尋 須磨区	すが の よし のり 菅野吉記 兵庫区	きた がわ みち お 北川道夫 東灘区	よし た けん じ 吉田謙治 西区	おお さわ かず し 大澤和士 垂水区
おき ひさ まさ る 沖久正留 中央区	どう した とよ じ 堂下豊史 北区	のき はらしゅん こ 軒原順子 長田区	みぶ じゅん 壬生 潤 垂水区	ふじ もと とう じ 藤本浩二 西区	やま だ てつ お 山田哲郎 北区